



たいせつなわたし、たいせつなあなた チャイルドケア事業部 平賀 佳雅

「まったくそうじゃね。」ポスターを見せた時、一人の方に言われた言葉です。子どもたちと共に「いじめ」について考えた時、相手だけではなく「自分も大切にすることで結果いじめが少なくなる！」との意見を聞き、そのような言葉になりました。子どもたちの中から出た「パレードをしたい!」「市の人と一緒に活動したい!」から始まった訪問も今回で3年目となりました。続けてきたことで街の方に声を掛けられることが増えました。今回は、パレードで歩く商店街の方々にもご協力いただき、事前にポスターの掲示をお願いしました。パレード当日はお店から出て手を振ってくださり、子どもたちも、活動が広がる様子を見ることができたことで、喜んでいました。

様々な方たちのご協力により、思いが広がっているピンクシャツデー。まずはそして自分自身を大切に、そして身近な方たちを大切に。

■年間聖句

天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。口語訳聖書 伝道の書3:1

■山梨YMCAの使命

- 自己の価値を見出し、共に生きる社会を創り出すために、青少年から高齢者までの、生涯にわたる学びのプログラムを展開します。
- 創られた全てのものを大切にし、自然と人間が共存してゆくための働きをすすめます。
- 全世界の人々と連帯し平和を表現してゆくために、特にアジア地域における日本の歴史的な責任を自覚し、近隣諸国とのよりよい友好関係を育てます。
- 全ての人々と共に、真の自由と平等を実現するため、差別や偏見を取りのぞくことに努めます。

春を迎えるこの頃、私にとって大切な時がやってきます。ここから次のステージに進む皆さんへのメッセージカードと向き合う中で、一人ひとりとの思い出が浮かび、時間を忘れて過去に没頭する私。一瞬で筆を運べるカードもあれば、考えに考え抜いて文字にしたカードもあります。人数分のカードを目の前にして、時が流れることの喜びを感じます。これら一枚一枚が、これまで彼らがYMCAでそれぞれ感動と成長の物語を紡いできた証となるでしょう。これからの「時と道」を、それぞれがYMCAらしく進んでもらいたいと祈っています。

山梨YMCAピンクシャツデー 報告

～声をとどける。声をうけとめる。～

YMCAでは、毎年2月の最終水曜日にピンクの服や小物を身につけ、「いじめ」について考え行動する「ピンクシャツデー」運動を全国各地で行っています。ここ山梨でも、行政、企業、他団体等のご協力のもと、子どもも大人も共に、互いに認め合い、多様性を大切にしようとする人とのつながりを作るための様々な活動を行っています。学校で把握された「いじめ」68万件、不登校児童生徒34万人が過去最高となっている今だからこそ、子どもたちからの声を大人が受け止め、地域で「育てあい、育ちあう」まちづくりを目指します。

自分のことも他者のことも大切にできる関係性に支えられた地域社会—ポジティブネット—を山梨に。皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

日時： ピンクシャツウィーク 2025年2月25日（火）～28日（金）
ピンクシャツパレード 2025年2月26日（水）
（場所 甲府市役所～銀座通り～YMCA）

場所： 山梨YMCAグローバルコミュニティーセンター
〒400-0032 甲府市中央3-10-7

ピンクシャツウィークは、YMCAの各事業所にて個別に行います。

内容： Y M C A の各事業所（保育園、児童発達支援事業、学童、高齢者デイサービス、教養教室等）にて「いじめ」や「こどもの人権」に関するアクティビティーを日常の活動の中で取り上げていきます。期間中、いじめ防止のシンボルとして、ピンクのTシャツや小物を身につけ、啓発活動を行います。2月26日（水）には、本館の学童の子ども達が甲府市を訪問し、メッセージを伝えながら街中をパレードします。



Pink Shirt Day 2024 ～いじめのない世界をめざそう～

ピンクシャツデーは、2007年、カナダの学生2人から始まった「いじめ反対運動」です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が75枚のピンクのシャツやタンクトップを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身につけて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然と無くなったそうです。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日に、私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す一日としています。

野の花保育園

大切な子どもたちのために

野の花保育園副園長 浅野 聖子

ピンクシャツデーの始まりを保護者にもお伝えし、メッセージをお願いしました。「やさしさ」、「いっしょだよ」、「みんな大事」、「えがおいっぱい」など、子どもたちにもわかる言葉が集まりました。2月26日(水)には、パレードに出発する学童の子どもたちに「行ってらっしゃーい」と手を振ってお見送りすることもできました。子どもたちはいろいろな経験を通し、ご家族や先生たちからの語りかけから言葉を獲得していきます。そして状況に合った言葉を覚えて使い始めます。これからも、一人ひとりを尊重して思いやりのある言葉がけをしていきたいです。



児童発達支援 ぽかぽか教室

ピンクシャツデーの取り組み

チャイルドケア事業部 守屋 瑞穂



ぽかぽか教室では「楽しい！を共感しよう、お友達や身近な大人との触れあいを楽しもう」をテーマに「伝承遊び」「触れあい遊び」を楽しみました。また、「色を混ぜて楽しむ」ことを通してピンクシャツの造形遊びも行いました。『泡ぶくたった、煮えたった♪』待て待て〜と追いかけてもらうことにワクワクの表情！「おいかけるあそび、たのしい！またやろう」と楽しさを感じ取っている様子でした。

造形遊びでは「わ〜、ピンクになったよ」と、赤と白を混ぜていき色が変わる様子に感激顔。今年も「ピンクシャツデー」を通して様々な経験をして、人と関わる楽しさを感じ取ることができた様です。

放課後等デイサービス きらきら教室

広がるピンクシャツデーの輪

チャイルドケア事業部 仙洞田 結

「ピンクシャツデーってどんな日？」と、導入で尋ねると、3年生の女の子が説明してくれました。彼女がYMCAで行った活動を覚えていてくれたことにうれしく思いました。今年はパレードに向けてピンクの小物を作ったり、「お友達に言ってあげたい嬉しい言葉」「言われたら嬉しい言葉」を書きだしたり、当日はパレードに参加して街中を歩きました！商店街ではピンクシャツデーのポスターが貼ってあるお店もあり、商店街の人たちも手を振っていただきました。活動の輪が、少しずつ広がってきていることを感じた2024年度のピンクシャツデーでした。



アフタースクール プライムタイム

ピンクシャツデーについて

チャイルドケア事業部 天野 絵梨子

ピンクシャツデーの取り組みでは、お友達に言われてうれしい言葉をテーマにメッセージを書きました。「ありがとう」「大丈夫」「一緒に遊ぼう」などとメッセージを書くお友達。それをみたお友達から「一緒に遊ぼうよ」「ありがとう」という優しい言葉が広がり、ぽかぽかとした時間が流れました。パレードでは、お友達同士が助け合い、手を取り合いながら声掛けをし、「緊張したけど呼びかけできたよ」と笑顔で話してくれた子どもたちの顔がとても印象的でした。いじめのない世界になるために継続して活動を続けていきたいです。



甲府市放課後児童クラブ にじの家

ピンクシャツデーパレード

チャイルドケア事業部 佐藤 健一郎

今年は「～たいせつなわたし たいせつなあなた～」をテーマに掲げ、山梨YMCAを利用している子どもたちみんなで行き組みをしてみました。また、2月26日（水）には、子どもたちと甲府市役所を訪れ、「いじめのない街づくり」を呼びかけました。その後、子どもたちが手作りしたプラカードをかかげ、商店街を歩きました。声をかけてくださった人もいて、ピンクシャツデーを知ってもらいきっかけができたと思います。



インターナショナルスクール キッズパラダイス

I am important, You are important.

チャイルドケア事業部 小見山 優未

カナダの高校生から始まったピンクシャツデー。Kids Paradiseでは「いじめ」ということだけに焦点を当てるのではなく、今年のピンクシャツデーのテーマである「たいせつなわたし、たいせつなあなた（I am important, You are important）」を軸として様々なプログラムを実施しました。自分を大切にするのと同じように周りの人も大切にする、大切にするためにはどんな声掛けができるだろう？という疑問を子どもたちに投げかけながら、英語で“You are amazing!” “Thank you for being kind!” など、Compliment（誉め言葉）メッセージを伝え合いました。Complimentメッセージを受け取った子どもたち、は少し照れくさいような、でも嬉しそうな笑顔を浮かべていてとてもほっこりした時間を過ごすことができました。I am important, You are important. 日々のプログラムでもこのテーマを子どもたちに伝え続けていきたいです。



南西教室

いじめのない世界を目指して

チャイルドケア事業部 風間 奈月

南西教室では、ピンクシャツデーの取り組みとして、「ピンクシャツデーとはどんな日？」「言われてうれしい言葉、ふわふわ言葉を考えよう」「ピンクシャツパレードに参加しよう」などを行いました。いじめがなく、みんなが平和に楽しく過ごすためにはどうしたらよいかを子どもたちと考えました。一つの答えとして「言われてうれしい言葉を言い合えば、みんなが良い気持ちで過ごせるね」という意見が出ました。最初は白かったTシャツも子どもたちの言葉によってピンク色に染まりました。また2月26日（水）には甲府市役所へ訪問し、その後は甲府市中心街をパレードをしてみました。この取り組みは、山梨YMCA本館の子どもたちが毎年行っていました。今年からは南西教室の子どもたちも参加しました！「たいせつなわたし、たいせつなあなた」と書かれた横断幕を掲げながら中心街を歩きました。誰も傷つかずに、楽しいうれしい言葉がたくさん溢れる世界になりますように。



多機能型事業所 りんごの木

ピンクシャツウィークを終えて

チャイルドケア事業部 森 香里



ピンクシャツウィークの取り組みでは、まず手作り紙芝居で『ピンクシャツデーってなに？』を学びました。その中でいじわるな顔、かなしい顔、うれしい顔、やさしい顔、色々な表情を見ながら、この子はどんな気持ちかな？みんなでじっくり考えていきました。表情と、気持ちや感情に合わせていくことで目に見えない心を伝えていきました。真剣にじっと紙芝居を見る子どもたち。その目はとてもきらきらしていて、純粋で素敵でした。一人ひとりの心に響いていたらうれしく思います。私たち大人にできることは子どもたちの心を育てていくことです。自分も他者を大切に

できるように、そしてみんなが笑顔で過ごせますように。いじめのない世界へ！明日からも私たちのピンクシャツデーの取り組みは続いています。



野外活動

野外活動 × ピンクシャツ バーチャルウォーキング

生涯学習部 菊池 央人

2月15日、キッツキくらぶとフクロウくらぶの合同プログラム「いちご狩り&里山ウォーキング」を開催しました。山梨市にある「名前のない展望台」からいちご農園のいちかわベリーハウスさんまでは、歩いて移動をしました。活動日はピンクシャツ月間中ということもあり、スタッフやリーダーはピンクシャツやピンクの小物を身につけての参加でした。

「なんだか今日はピンクが多いな？」こんな疑問を感じたメンバーもいたかと思います。ピンクシャツデーについて知らないお友達もいたので、行きバスの中では紙芝居を通して、この運動が始まるきっかけとなったストーリーを知りました。プログラム中の里山ウォーキングでは、3000mを歩きました。そこでYMCAせとうちさんが行っている「ピンクシャツデーバーチャルウォーキング」に、活動終了後のフォーム入力という形で参加をしました。ピンクシャツストーリーに登場した二人の少年のように、いじめに対して「自分ごととして」向き合い、「傍観者にならない」わたしたちでありたいと改めて確認できた一日となりました。



高齢者事業部 デイサービスセンター オリーブの木

広がれ、皆さんの思い

高齢者事業部 帯金 君枝

ピンクシャツデーに向けオリーブの木では、ご利用者とともにピンクの色紙でTシャツを折り、胸元にそれぞれ思いを込めました。皆さん、細かい作業に苦戦しながらも取り組んでくださり素敵に仕上がりました。当日は、ピンク色を身につけて来所された方もいらっしゃり、その気持ちがとてもうれしかったです。また総主事からご利用者に向けて、ピンクシャツデーの歩みについてお話していただきました。皆さん、話に頷かれながら関心深く耳を傾けていました。そして話を聞き終わり、ご利用者の思いはひとつ。「みんな仲良くしましょう」という事でした。これからもこの運動を続けていき皆さんの思いが広がっていくことを願っています。



ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(敬称略・順不同) 甲府市役所、暮らしの保健室 晴ればれ、TOKYODO、吉字屋履物店、 ギョクホー堂、春光堂、銀座ブラザー、正視堂、BestCut、ブティックバンビーナ、古着屋 BEAM、フルウント甲府、河野スポーツ、早川呉服店、ASKA、風月堂、BAZZ

山梨YMCA教育フォーラム

山梨YMCA教育フォーラム「不登校を考える」開催報告

教育心理研究所 代表 土肥 満

去る3月1日（土）13時30分から、山梨YMCA本館3階ホールにおいて、「不登校を考える」会を開催しました。

これは、近年社会問題化している不登校の増加の課題に対して、当事者・家族を含めて、関係者、関心を持つ人々がともに考えていく機会を作りたいと考え企画したものです。

併せて、この課題に対して、山梨YMCAが3月から取り組もうとしている「フリースクール『わいわいクラブ』」についても、知っていただくと考えました。

当日は、オンライン参加者も含めて、74名の参加者があり、この課題への関心の高さを感じました。

はじめに、リレー講演として、山梨大学准教授の田中健史朗先生から、現在の不登校の状況や背景、対応策等が話され、続いて、山梨YMCA心理カウンセリングアドバイザー公認心理師 一瀬英史先生が 子どもの心の育ちや寄り添い方について丁寧にお話しくださいました。その後、シンポジウムを行いました。甲府市教育委員会の方、フリースクールの代表者、当事者、幼稚園の園長先生と、それぞれのお立場から取り組んでおられることやお考えをお話くだ

さいました。特に、フリースクール「にじらボ」の利用者（高校3年生）のSさんのお話では、「フリースクールとは？」の問いに、「長いトンネルのようだ。でもその先に光が見えた」と答えていおられたのが印象的でした。その言葉には、参加された方々皆さん共感されていたようでした。

<参加された方のアンケートから>

・素晴らしい講師陣、素晴らしい内容でした。参加させていただき本当に多くを学ぶことができました。

・今回はとてもいい研修でした。考えるきっかけをいただきありがとうございます。これからも学びを深めて行きたいと思います。ぜひ、また開催してほしいです。楽しみにしています。

* 今回の教育フォーラムの当日プログラム、オンデマンド動画、アンケート結果を公開（4月31日まで限定）していますので、興味のある方は右記のQRコードからアクセスしてください。



銀河鉄道の森 ワークキャンプ 報告

小さな星の、小さな一歩～銀河鉄道の森プロジェクトの歩み～

生涯学習部 ディレクター 福田 奈里子

2023年夏より構想が始まった銀河鉄道の森プロジェクト。YMCAの野外活動はもちろん、学童に通う子どもたちや生きづらさを抱えた若者たち、就労を目指す障がい者など、さまざまな背景を持つ人たちが森に入って生きる力を身につけ、人と出会って関わり豊かな味を味わう…そんな場を創ろうと、この企画はスタートしました。

その大きな特色は「手作りのキャンプ場」であるということ。かつてのハイスクールYMCAの高校生たちが、瑞牆山の麓でボランティアワークをしたように、現代の10代20代のユースたちが中心になってキャンプ場整備のデイワークを行っています。これまで11回のワークで、竹藪を切り拓き、道を作り、杭を打ち、樹木の伐採をして、荒れた山林が「里山」として人と共生できる場になってきているのを実感しています。毎回このデイワークで手作りのカレーをふるまってくくださるのが、かつてのハイYOBを中心としたワイズメンズクラブの方々です。YMCA運動のスピリットがこうした形でさりげなく世代間で受け渡されているこの恵みに感謝せずには

られません。

2024年12月にはワイズメンズクラブとYMCAの協働事業ユースアクションの助成を受けて、山梨YMCAユースリーダー会では、児童養護施設の子どもたち

に向けた野外活動「STARting Camp」を企画・実施しました。これによって、キャンプ場作りのワークのみならず、ここを拠点にしたユースの活動の場、子どもたちの居場所づくりの足掛かりができました。ユースが名付けたSTARting Campという名前には「子どもたち、ユースそれぞれが皆輝く星（STAR）であり、その輝きをもったひとりひとりが自分らしく生きる道を踏み出すSTARTラインに立つ」という想いが込められています。キャンプ場名の由来となっている『銀河鉄道の夜』で宮沢賢治が我々に投げかけた「ほんとうのさいわいは一体何だろう。」という問いに、YMCAに集うユースたちもまた、この森で応えようとしているのだと受け止めました。

わたしたちが直面している現実是非常に厳しいものです。世界の状況しかり、そしてYMCAもまたしかし。不安の中の小さな灯を抱えながらも、信じて歩み続けていく中でわたしたちはきっと何かを見つけられると希望を持たずにはられません。人間のはかりごととしての「プロジェクト」を超えた、もっと大きなご計画の内を歩んでいることを、この1年半の取り組みの中で随所にわたしたちは味わってきました。森も人も共に育てられる場、銀河鉄道の森でたくさんの人たちが自分らしい輝きを放つ一歩を踏み出してくれることを願います。

「あなたの業を主にゆだねれば計らうことは固く立つ。」

（箴言16:3）



ワイズメンズクラブについて

YMCAを支えるワイズメンズクラブ

甲府ワイズメンズクラブ 会長 小倉 恵一



世界中にあるYMCAを支えるために、世界中にワイズメンズクラブという大人の会があります。山梨県内にも山梨YMCAを支える甲府・甲府21・富士五湖・甲府やまなみという4つのワイズメンズクラブがあり、それぞれに連携を取りながら活動をしています。

山梨YMCAの一大行事であるYMCAバザーやチャリティーランをはじめ、フクロウキャンプ等々のプログラムのお手伝いをしたり、独自あるいは山梨YMCAと共同して地域の役に立てる活動をしています。

また、奉仕活動だけではなく毎月1~2回は例会等を開催して、会員間で研鑽したり、交流を深めたりもしています。甲府ワイズメンズクラブの3月例会では、中田純子総主事のご縁で「公益財団法人東京YMCA・東京YMCA国際ホテル専門学校校長」の小畑貴裕様にスピーチをお願いしました。

小畑様は山梨YMCAの3階ホール「ベテル」にも名前を冠する故大澤英二先生の親戚筋でもあり、英二先生との思い出話や東京YMCAが1935年に国際ホテル専門学校を開校する事になった歴史（日本でのオリンピック開催誘致の話から→来日する外国人客を受け入れる国際ホテルの新規開業が必須→国際ホテル職員の養成が急務となり、英会話学校等で実績のあるYMCAに当時の東京市から要請があり開校した）

を始め、現在の学生・卒業生が日本や海外のホテルで活躍している様子等々のお話を伺いました。

その中で、現在YMCAのない国ラオスに、日本のワイズメンズクラブの支援で「ラオスYMCAホテルスクール」を設立して、日本とラオスの相互交流による経済発展や平和に貢献する構想が進んでいます。今年の10月に学生募集を始めて来年4月に開校予定であるという、明るい夢のある話をさせていただきました。

世界中にあるYMCAを支える大人の会「ワイズメンズクラブ」は、世界中に仲間がいて、その活動を通して多くの人々と交流し、自分自身も共に成長できる会です。大人であればどなたでも入会できますので、HPをご覧くださいたり山梨YMCAやチャリティーランの時にお声がけいただけると幸いです。



史料室便り No.6

初代理事長・市川規一氏（その1）

史料展示室運営委員 仙洞田 安宏（甲府やまなみワイズメンズクラブ）

山梨YMCAは、戦後の傷跡が残る1946年5月1日に誕生しました。「8人の侍」といわれる人々が創設の準備に関わりましたが、その中心的な役割を担ったのが、初代理事長となる市川規一氏(1913~1963)です。市川氏は、甲府市錦町(現・中央1丁目)で自らが営む歯科医院の応接室を開放して事務所・集会所とし、多くの青少年や青年実業家などの交流の場を提供しました。5月1日の発会式の日は、それまで11年も禁止されていたメーデーが復活し、皇居前では大勢の勤労者が集まり賑やかな祭典が繰り広げられましたが、それとは対照的に、ささやかなしかしながら希望に溢れた発会式が甲府警察署の講堂で行われたとのことです。市川氏は1950年には甲府ワイズメンズクラブを設立し初代会長に就任するとともに、YMCA会館建設のための募金活動を成功させました。初代会館は、ワイズメンズクラブ発足からわずか6ヶ月後という短期間で、奇しくも12月25日のクリスマスに開館しました。



本文は以下の文献を参考にしました。これらは史料室に収蔵されています。「日本YMCA人物事典」「荒野に水わきいで-山梨YMCA40年史」「甲府ワイズ物語(布能寿英・著)」

音楽教室発表会

音楽教室発表会を終えて

チャイルドケア事業部 石原 弘美

去る3月8日(土)「山梨YMCA音楽教室発表会」が大澤英二記念ホール「ベテル」で行われました。第1部は、バッハ、ベートーベン、モーツァルトなどの名曲、いつもの耳慣れた曲、レット・イット・ゴーなど、この日のために一生懸命練習してきた成果を発表してくれました。第2部は小学3年生以上の9名が自分で作曲したオリジナル曲を演奏しました。春の訪れを感じる曲、今までの思いを表現した「思い出」「一步一步」「手のひら」など、力作揃いで会場は拍手でいっぱいになりました。第3部合唱は「小さな世界」「風よふけふけ」、全員の元気いっぱいの声がベテルホールに響きわたり、感動のうちに終了しました。



のぞいてみよう 山梨YMCA



山梨YMCA公式ホームページ



山梨YMCA公式Facebook



@YAMANASHIYMCA_YAGAI



YAMANASHIYMCA_YOUTH

ご寄付のご協力に感謝いたします。

2025年 2月 (敬称略)

榎本富美子

大曾根春子

小原史奈子

神谷幸男

中込誉世夫

野々垣健五

長谷川あや子

富士五湖ワイズメンズクラブ (12名)

松本ワイズメンズクラブ (8名)

インフォメーション

第27回山梨YMCAインターナショナル チャリティーラン

日 時：2025年5月24日(土) 8:00～

場 所：小瀬スポーツ公園 補助競技場

第27回山梨YMCAインターナショナル・チャリティーランは5月24日の土曜日に開催が決定しました。昨年度も県や市、多くの支援企業様、各ワイズメンズクラブの皆様からボランティアや支援金、物品支援などをいただき、ありがとうございました。また、参加者も増えて子どもと大人の交流が深まるイベントとなりました。今年のチャリティーランも昨年同様、皆様のご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

2025年度 ボランティアリーダー募集

山梨YMCAユースリーダー会では、野外活動や学童保育、デイワークをはじめとした多岐に渡る分野のリーダーを募集しています。たくさんの方とのつながりや出会いを求めている方、子どもと活動するのが好きな方、社会に少しでも貢献したいと思っている方におすすめです。

ぜひ山梨YMCAであなたの人生をより

充実したものにしませんか？

アウトドアクラブ(4月)募集中！

春のふしぎ探しハイク&絶品ソフトクリーム

日 時：4月26日(土)

場 所：清泉寮(北杜市)

※詳細はホームページをご覧ください。

表紙の写真から



2月26日(水)に甲府市役所を訪れました。甲府市長らに「子どもや大人関係なく、全ての人に対し大切に思うことを、一緒に声をあげ、いじめのない世界になるように協力してください」とメッセージを伝えました。この後は「たいせつなわたし たいせつなあなた」という横断幕や子どもたちが手作りしたプラカードを掲げてパレードを行いました。いじめ問題について当事者意識をもって声を上げることの大切さを実感できたと思います。